

自主臨床研究のページ（HP 用原稿）

兵庫医科大学小児外科教室で現在行っている自主臨床研究について紹介します。

多施設共同研究での研究課題

低出生体重児の消化管機能障害に関する周産期背景因子の疫学調査研究 についてのお知らせ

兵庫医科大学小児外科および下記の研究機関・医療機関では、厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等克服研究事業）の一環として、以下の疫学調査研究を実施しています。

【調査期間】：2013年4月1日～2014年3月31日

【調査対象】：2003年1月1日～2012年12月31日に器質的疾患を伴わない腸穿孔または腸閉塞に対して開腹術をうけられた出生体重 1500g 以下の新生児の患者さん。

【研究機関・医療機関名】兵庫医科大学小児外科

その他全国では、神奈川県立こども医療センター外科、大阪府立母子保健総合医療センター小児外科、名古屋大学医学部附属病院周産母子センター新生児学、九州大学大学院医学研究院小児外科学分野、国立成育医療研究センター 新生児科、静岡県立こども病院 小児外科、兵庫県立こども病院 外科、大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学で同時に実施。

【目的】本研究では多施設共同により多数の症例を集積して、その周産期背景因子の解析結果に基づく壊死性腸炎、特発性腸穿孔、胎便関連性腸閉塞、胎便性腹膜炎の診断基準ならびに診療ガイドラインを作成することを目的とします。

【研究方法】NICU ならびに小児外科を擁する国内主要 8 施設ならびにその関連施設における過去 10 年間の壊死性腸炎、特発性腸穿孔、胎便関連性腸閉塞、胎便性腹膜炎を対象として後方視的コホート観察研究を行います。対象例 1 例につき 2 例の対照症例（週数と体重を合わせた消化管機能障害非合併例）を設定します。次に各症例の周産期データを診療録より収集・解析して、疾患毎の予防要因・予後因子調査を行います。

【意義】本研究の成果をもとに、日本小児外科学会と連携して、低出生体重児

における消化管機能障害である上記4疾患の診療ガイドラインを作成します。これにより、それぞれの疾患の病態に応じた治療が可能となり、低出生体重児の救命率・長期予後の改善が期待できます。

【個人情報の扱い】患者さん個人を特定できるような情報は研究事務局には送付いたしません。個人情報を含まない集計結果のみを国内外の学術集会・学術雑誌に公表することがあります。個人情報を含まない集計結果のみの公表のため、個人情報は保護されますのでご安心下さい。本研究は疫学研究であるため、情報を集計するにあたって必ずしも患者さん、あるいはご家族の同意を頂いておりません。もし、研究参加の撤回を希望される方がいらっしゃる場合は、下記研究代表者までご連絡下さい。

【本研究に関する問い合わせ先】

研究代表者 奥山宏臣

兵庫医科大学外科学(小児外科)

〒663-8501 西宮市武庫川町1-1

TEL : 0798-45-6582

FAX : 0798-45-6581

E-mail : okuyama@hyo-med.ac.jp